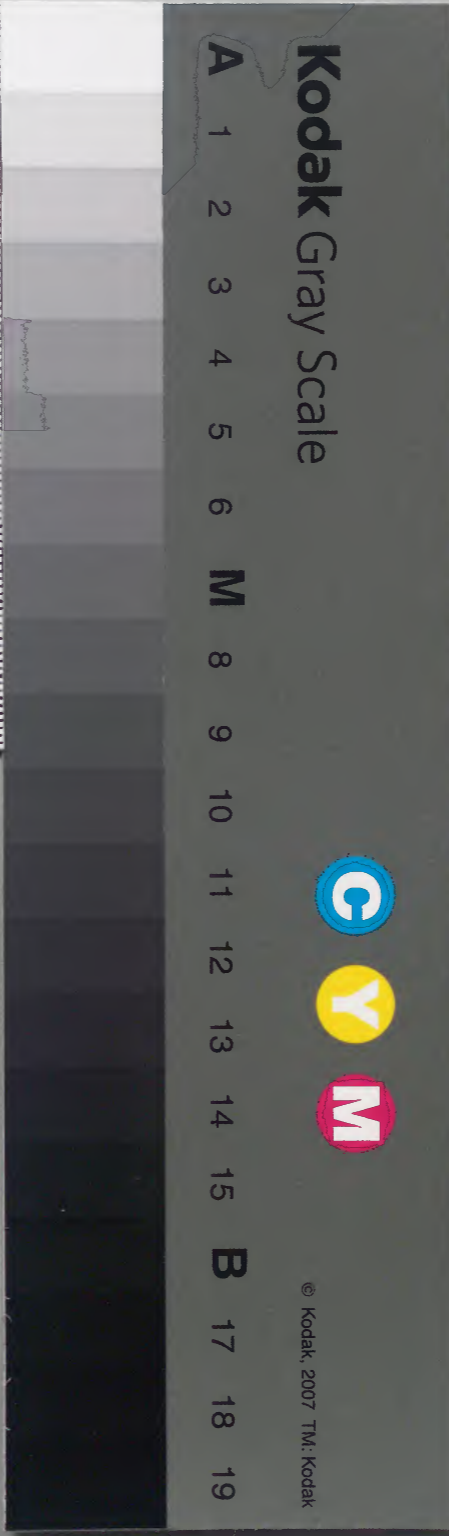


春葉集

本

内閣文庫			
函	冊	號	類
201	2	25468	和書

内閣文庫			
番號	和 25468		
冊數	2 (2)		
函號	201	714	



書籍
銅印

古今和歌

集序文庫

和学講談所

やうやう歌の心なるといふてうは

れこの集りたたまひ守持世中より人

の心なるといふてうは

なううひすれおとむかたのり声なき

きはまきこひなま好物いつまううばよ

るちりももいまうては免つらばう

めふみあはれれもあはれはなまは

とをえあのたうも和まは

後一

銅印

とひて花なきも人多く又花の好むも花のち花
を見秋のうらみしよその葉もたつたよと
けりは年よとに境のけりふんしゆ花雪や波
とよたけきもまれ花のけりけりをみてわ
りなをたけきもまれ花のけりけりをみてわ
てしよと花をうらみしをりしよと
もよしもりしよと花のけりけりをみてわ
かきおちりしよと花のけりけりをみてわ
かきおちりしよと花のけりけりをみてわ
あはれしよと花のけりけりをみてわ

野川と花をてを中花のけりけりをみてわ
ちりしよと花のけりけりをみてわ
たけきもまれ花のけりけりをみてわ
まきおちりしよと花のけりけりをみてわ
の人花なきも人多く又花の好むも花のち花
とよたけきもまれ花のけりけりをみてわ
けりは年よとに境のけりふんしゆ花雪や波
とよたけきもまれ花のけりけりをみてわ
りなをたけきもまれ花のけりけりをみてわ
てしよと花をうらみしをりしよと
もよしもりしよと花のけりけりをみてわ
かきおちりしよと花のけりけりをみてわ
かきおちりしよと花のけりけりをみてわ
あはれしよと花のけりけりをみてわ

ふりそりてはなれぬ秋のさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人

ふりそりてはなれぬ秋のさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人
かたはるるあはれもさきつゆさきとてはなれぬ人

と月をたはしむるはなほいとほしき事なり
とていふはなほいとほしき事なり

正徳癸巳暮秋也

東丸漫書

信美臨書

[Faint bleed-through text from the reverse side]

あはれ自前田乃伝心長くありてりへられはたし
歌糸はほし文を昔の人共を習ひ承とを
也あはれとあはれとむすのはつらき事なり
に孫をばし又禮志文能はきき云のはふ事
也つたつとあはれとあはれとむすをは
るんによははれとむすのむすはあはれ
乃前田つたつとあはれとむすのむすはあはれ
あはれとむすはあはれとむすのむすはあはれ
あはれとむすはあはれとむすのむすはあはれ
かうつたつとあはれとむすのむすはあはれ

後八

て安んず精乃日と経一の所終かぬ事也
子終の事と云ふ事ありける事
此の終の事と云ふ事ありける事
正吉子終の事と云ふ事ありける事
名は正吉子終の事と云ふ事ありける事
由る所の事と云ふ事ありける事
はまの事と云ふ事ありける事
はまの事と云ふ事ありける事
世ふおとしは終の事と云ふ事ありける事
て終の事と云ふ事ありける事

見せ給ふ事と云ふ事ありける事
正吉子終の事と云ふ事ありける事
名は正吉子終の事と云ふ事ありける事
由る所の事と云ふ事ありける事
はまの事と云ふ事ありける事
はまの事と云ふ事ありける事
世ふおとしは終の事と云ふ事ありける事
て終の事と云ふ事ありける事

終の事と云ふ事ありける事

附錄

謹請蒙

鴻慈創造國學校啓

荷田東麻呂

誠惶誠恐頓首頓首謹聞伏惟

神君勃興山東霸功一成平章天下艸上之風孰越君

子之志維新之化始建弘文之館庶矣且富又何之

加

明君代作文物愈昭光烈相繼武事益備濟濟焉蔚蔚

焉鎌座氏之好儉庸何及于斯乎郁郁乎斌斌乎室

町氏之尚文豈同日之談哉應此昇平之化天生寬仁之

君以其天縱之資國見不嚴之教野無遺賢倣陶唐之諫鼓朝多直臣擬有周之官箴上尊

天皇專不譎之政下懷諸侯而來包茅之貢道齊有暇則傾心於古學教化不周則深治於先王購奇書於千金天下聞達之士嚮風探遺篇於石室四海異能之客結軾臣嘗遊都下之日幸蒙射策之捷忝不顧謏劣之義偶有校書之命浴于忘布衣之恩誰爲爲之誰令聽之子遷氏之言深有取焉雖有智慧不

如待時鄒孟子之意良有以也當時旣有意於賴幕府之威靈起此大義借

大樹之庇蔭達臣素願而不敢者私心竊以跬步不已跋鼈千里犬馬之年未滿六十今日之美安知不爲異日之醜後進之知豈識不如先輩之能愚而自用難免螾斧向車之謗賤而自專似忘燕石銜人之羞有志而不遂千里遲遲歸豈圖卒有採薪之憂騏驥徒伏槽櫪之間何意爲造化小兒苦鴻鵠長繫樊籠之中口不能言同陳仲子之居於陵脚不能行似卞和氏之在楚山爲世廢人噬臍何及遇時窮阨頰眉

獨泣天之將喪斯文也命也天之未喪斯文也時也時之不可失不敢不告也今也洙泗之學隨處而起瞿曇之教逐日而盛家講仁義步卒廝養解言詩戶事誦經闍童壺女識談空民業一改我道漸衰紀土州嘗嘆焉田園競捨資產傾盡善相公深痛矣臣竊以是亦足以見太平日久之象唯有爲可痛哭長太息者在我

神皇之教陵夷一年甚於一年

國家之學廢墜存十一於千百格律之書氓滅復古之學誰云問詠諠之道敗闕大雅之風何能奮今之談

神道者是皆陰陽五行家之說世之講詠諠者大率圓鈍四教儀之解非唐宋諸儒之糟粕則胎金兩部之餘瀝非鑿空鑽穴之妄說則無證不誓之私言曰祕日訣古賢之真傳何有或蘊或奧今人之僞造是多臣自少無寢無食以排擊異端爲念以學以思不興復古道無止方今設非振臂張膽辨白是非則後必至塗耳塞心混同邪正欲退則文已漂已晦欲進則老且病且僂猶豫無所決狼狽失所爲伏此請望或京師伏陽之中或東山西郊之間幸賜一項之閑地斯開

皇國之學校然則臣自少所蓄祕籍奧牒不少至老所訂古記實錄亦多盡皆藏于此備他日之考索僻邑之士爲絕難及者或有寒鄉之客有志而未果者間多借之讀之才通一書百王之澆醜此知洞覽千古萬民塗炭可拯幸有命世之才則盡敬王之道不委于地若出琢玉之器則拂本氏之教再奮於邦六國史明則豈翅

官家化民之小補乎三代格起則抑亦不若之於古國祚悠久之大益哉萬葉集者國風純粹學焉則無面墻之譏古今集者訶詠精選不知則有無言之誠夫

本邦設施學校權輿于近江
朝廷主張文道濫觴於

嵯峨天皇菅江家有分彰院源藤橘和繼起太宰府有
學業院足利金澤延及然所藏三史九經陳俎豆於
雍宮其所講四道六藝薦蘋蘋於孔廟悲哉先儒之
無識無一及

皇國之學痛矣後學之鹵莽誰能歎古道之潰是故異
教如彼盛矣街談巷議無所不至吾道如此衰矣邪
說暴行乘虛入憐臣愚衷創業於國學鑑世倒行垂
統於萬世首創難成功非經國大業邪繼續易用力

真不朽盛事哉臣之至愚何之知所不敢自讓者語
釋也國字之多紕繆後世猶有知之者典籍猶存古
語之少解釋振古不聞通之者文獻不足國學之不
講實六百年矣言語之有釋僅三四人耳其爲巨擘
新奇是競極無超乘骨髓何望古語不通則古義不
明焉古義不明則古學不復焉先王之風拂迹前賢
之意近荒一由不講語學是所以臣終身精力用盡
古語也伏以斯文之興之與廢固在此舉之取之與
捨願

閣下留意幸察臣東麻呂誠惶誠恐頓首頓首謹言

春葉集後序

此編我東麻呂大人之遺草也大人

本朝止預荷田信詮之次子自勇好學篤
志於

皇朝復古之學至于國史律令古文古歌
及諸家之記傳彙博無所不通然無所歸
尚而其所自得發明極多矣專保中遊於

江都聲名藉甚特有
內命使侍臣某從遊屢授古書居之數年
得疾歸京已而伏陽令北條遠州傳
內命賜銀若干大人嘗有創立國學校之
志乃上書陳執事未報而歿矣其志雖不
遂其言可傳焉大人無子以姪在滿為嗣
在滿仕於 田安金吾君博學不遇以疾

緯薦賀茂真淵代焉真淵在大人之門二
十年所萃名于海內大人以元文丙辰七
月二日歿鄉也以元文庚申生故不能見
其盛業又不能聞其高論遺憾實深大人
易箒日命侍兒採平生所著之草稿數品
竊焚之不使諸子弟識之蓋不欲傳之後
世也是以其著述存者已幾若國風吟咏

散在他家者搜索之數年才得如百首猶
恐有遺珠之憾且錄之傳於家矣阮秋成
者浪華人也受學於藤原美樹美樹者夏
陽之門人乃大人之流裔也勸予採此編
而秋成手授之書之且序之因族信美示
與焉名曰春葉集菅取之萬葉集中之錄
云

寬政乙卯之秋

稻荷祠官正四位下 荷田信郷識

孫從五位上 延年敬書





